

松田アドバイザーの訪問を通して

「組織力向上」に関わり、松田アドバイザーが11月30日より3回、本校に足を運んでくださっています。

1回目は、本指定事業に関わる年間の訪問、2回目は放課後の教科主任会に、3回目は県版学力調査後の取組の聞き取りのため来校されました。

3回の訪問を通して、共通して強く言われていたことは、

- ①授業も教科会も教科主任会も全て「子供たちの資質・能力の育成」のためであることを忘れてはいけない。
- ②県版学力調査で基礎・基本に課題が見られたからといって小テストの実施や宿題を増やすという発想に陥らず、本校がこれまでも大切にしてきた「授業改善に目を向ける」ことを忘れてはいけない。

ということでした。

授業改善の柱として本校は「日常事象と関連付けた問題」にこだわって各教科で研究をしてきています。その問題を解決するためにはどんな授業が必要かを今後も教科会で大切にしていきたいと思います。

12月8日の職員会・校内研で松田アドバイザーの訪問を受けての報告や今後の取組の確認をしましたが、再度、次の点を意識して教科会を行ってください。



11月30日 教科主任会

教科会の持ち方

- 学習指導要領を必ず開き、「付けたい力」を確認したうえで、単元構想をする。
- 単元や1単位時間の評価の内容を検討し、その力が付いているのか途中経過を共有する。

授業づくり

- 「付けたい力」が付いたかを授業の中で見取る場面を設定する。
 - ・そのために、「子供たちにゆだねる時間」はどこか、「付けたい力が発揮できる場面はどこか」等、事前に検討する。
- 各教科、ノートに表された生徒の表現や振り返りを見ていく。

(「付けたい力」が付くと「達成感」にもつながり [達成感：11/30の教科主任会で出された言葉]、それが「まとめ」「振り返り」にも現れる。)
- 基礎・基本の定着のためにも活用の場面を大事にする。

(知識は忘れるが、活用させると忘れない。)

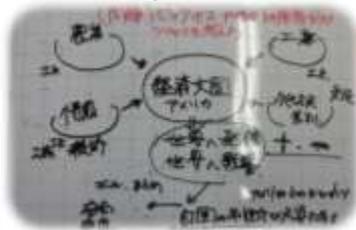
ある日の教科会(社会)



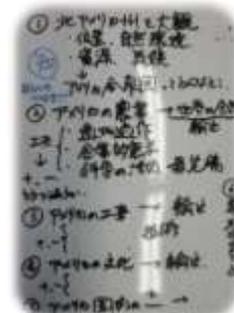
1年生 3学期の単元構想

右の③の場面では、まず本時のゴールを確認し、めあて、本時のメインの活動に入る前に押さえるべきことの確認や、本時のB評価としてどんなことが言える(書ける)と良しとするのか、などの確認が行われていました。

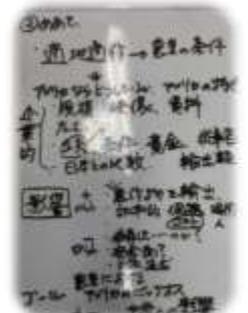
生徒の興味・関心をひくために考えられた「問題」(赤文字部分)



①ホワイトボードで単元全体をイメージ



②単元全体の流れと各時間で押さえるべきことの確認



③本時の流れと本時で押さえるべきことの確認

明後日から冬休みに入ります。冬休みの教科会では、校内研で確認のあった「**学力調査の結果分析を終えて各教科で取り組むこと**」「**全国調査までのスケジュール**」について話し合ってください。併せて、「**教科の本質**」(「**〇〇科ではこんな力を付けます**」「**そのためにこんな授業を目指します**」)についても協議していきましょう。